

審査の結果の要旨

氏名 山田 翔平

本研究は、日本における大学図書館の蔵書の実態を記述的に明らかにするものである。資料として日本語の図書を対象とし、主題分野として経済学、理学、文学、工学の4分野を取り上げ、どのような属性の大学群において、どのような性質の資料が所蔵されているかを、約400万件からなる大規模な書誌レコードを活用して、明らかにしていく。分析においては、利用者とりわけ学生の視点を想定し、その視点に対応する属性を導入する。大学の属性としては入学試験の偏差値、設置形態、所在地に着目し、資料の属性としては、主題分類、日本図書コードの分類コード、ページ数、価格、出版年、出版者に着目して、大学の属性に従って分けられた大学群ごとに、所蔵冊数および資料の属性から見た蔵書の構成を記述し、また、群間の相違を明らかにする。

論文は全9章からなる。第1章では、本研究の問いと背景が示され、研究の目的が、大学図書館蔵書に対する解像度の高い記述そのものにあることが述べられる。第2章では、大学図書館研究、大学図書館蔵書研究、大学類型論の観点から関連研究が整理され、本研究の位置付けが明らかにされる。これら2つの章を通して、本研究の第一の意義が、これまでの大学図書館蔵書をめぐる研究が前提としていた議論の解像度を一歩上げ、従来研究においては個別図書館の調査でのみなされてきた、資料の詳細な属性に踏み込んだ蔵書の構成に関する記述を、対象とする分野に対応する学部を有する複数の大学に対して総合的に与えることにあることが確認される。第3章では、資料、大学、分野・タイトルのそれぞれに関して分析の対象が確定されるとともに、分析の手続きが詳述される。

第4章から第7章では、経済学、理学、文学、工学のそれぞれについて、偏差値、設置形態、所在地に応じた大学群における資料の性質が詳細に記述され、蔵書の特徴が明らかにされる。続く第8章で、第4章から第7章で詳述された大学群ごとの資料の傾向と群間の差異、分野ごとの蔵書の性格が総合的に整理される。ここでは、偏差値の高い群の所蔵タイトル数が多いこと、偏差値中位の群で所蔵タイトル数の散らばりが少ない一方で偏差値の低い群で散らばりが大きいこと、偏差値の高い群では相対的にページ数が少ない資料の比率が高くなること等が示される。設置形態別では、公立大学で専門的な資料の比率が高いこと、低価格の資料の比率が低いこと、出版者の順位が国立・私立大学と異なること等が明らかにされる。所在地別では、所蔵タイトル数で大都市群の大学が多いものの、専門性や資料種別、出版年や出版者といった属性から見ると大都市群とそれ以外とで似通っていること等が示される。また、分野の特徴として、経済学では教養書と実用書、文学では一般書、工学では専門書の比率が高いこと、理学では大学群による散らばりが少ないこと等が示される。

本研究は、巨視的な視点から大学図書館蔵書の編成を具体的に明確化するという課題を定義し、蔵書の編成について解像度の高い記述を丁寧にと与えたという点で、これまでの大学図書館研究で欠けていた点を補う重要な価値を持つ。記述そのものを第一の目的とし、解釈に対して意識的に禁欲的な態度を取っているために、関連する従来の研究との有機的な関係付けが課題として残るものの、本研究が明らかにした詳細な蔵書の性格付けは、今後の大学図書館研究そして図書館を考慮した高等教育研究において基盤となる知見を構成するものと高く評価できる。よって、本論文は博士(教育学)の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。